

# 諏訪の景気動向

平成23年 5月

(平成23年 4月末 D・I調査)

平成23年5月27日

岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

経営相談室

## 諏訪地方の景気動向（平成 23 年 4 月末）

「平成 23 年 4 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

諏訪地方 181 社のご協力を得て行った 4 月末の「景気動向調査（D I 調査）」では、回答全社の「3 ヶ月前」と比べた業況判断 D I は $\Delta 18.2$  と前回調査時（平成 23 年 1 月末、以下同）の $\Delta 25.2$  から 7.0 ポイント改善したものの 3 期連続のマイナスとなった。

製造業の業況判断 D I は $\Delta 14.1$  と前回調査時の $\Delta 21.8$  から 7.7 ポイントの改善、非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の同 D I は $\Delta 27.7$  と前回調査時の $\Delta 33.9$  から 6.2 ポイントの改善となっている。ただし、3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響から「3 ヶ月後」の業況予想 D I は製造業が $\Delta 24.4$ 、非製造業が $\Delta 27.8$  とマイナス幅が拡大しており先行き不透明感が強まっている。

製造業の「3 ヶ月前」と比べた業況判断 D I は、「好転」企業 15.0%、「横這」企業 55.9%、「悪化」企業 29.1% で同 D I は $\Delta 14.1$  と前回調査時の $\Delta 21.8$  から 7.7 ポイント改善したものの、3 期連続のマイナス推移となっている。また、先行きに関して「3 ヶ月後」の業況予想 D I では「横這」企業の割合が 47.2% と最も多いものの、「好転」企業 14.2%、「悪化」企業 38.6% で同 D I は $\Delta 24.4$  と前回調査時の $\Delta 1.5$  から 22.9 ポイントの大幅な悪化となった。

収益性 D I では「3 ヶ月前」と比べ「好転」した企業が 3.9%、「悪化」した企業が 30.7% で同 D I は $\Delta 26.8$  と前回調査時の $\Delta 30.8$  から幾分改善しているが、「3 ヶ月後」の収益性予想 D I では「悪化」を予想する企業が 41.3% を占め、同 D I は $\Delta 32.6$  と前回調査時の $\Delta 15.8$  から 16.8 ポイント悪化した。

前回調査の 1 月末の時点では「春先以降は踊り場の状況を脱し、緩やかな回復基調へ向かう」と見込まれていたが、「東日本大震災」により景況感も変化している。一部では代替生産等の動きから生産水準が上昇している企業もみられるが、震災直後に比べ改善しているもののサプライチェーンといわれる部品等の供給網の寸断から自動車関連を中心に地域企業の受注は減少している。

また、ヒアリング調査では震災の影響の全容がまだ不透明といった不安感や中部電力 浜岡原子力発電所の稼働停止の影響、また生産の海外流出を危惧する声がかかる。

商業は、震災直後は各種の品物で「買いだめ」の動きがあり、飲料水やカップ麺、また乾電池やトイレットペーパーなどが欠品したが、4 月に入り「買いだめ」も静まり、各商品も安定供給されはじめ落ち着きを取り戻した。御柱祭のあった昨年に比べ食料品や酒などの動きは弱いものの、震災の影響により「内食」や「中食」とよばれる自宅で飲食をする傾向が再び強まり、「3 ヶ月前」と比べた業況判断 D I は $\Delta 17.7$ 、来店客数 D I は $\Delta 23.6$  とマイナスではあるが、前回調査時から両指標とも 20 ポイント近く改善している。

また、家電製品ではエコポイント制度の終了により薄型テレビの動きは弱含んでおり、自動車販売では新車の供給が停滞していることから諏訪地方の 4 月の車庫証明件数（軽除く）は 619 台で前年同月比 $\Delta 192$  台（ $\Delta 23.7\%$ ）の大幅な減少となった。

**観光・サービス業**は、震災の影響による団体客を中心とした宿泊のキャンセルに加え、前年が御柱祭 期間中であったことから「前年同期」と比べた宿泊客数は81.0%の施設で「減少」しており、宿泊客数D Iは△76.2と前回調査時の△14.3から大幅に悪化した。

また、ゴールデンウィークの予約は4月上旬には低調だったものの、連休直前に駆け込みで増加したホテル・旅館が多く、当初 危惧していたよりは予約状況は堅調であるとする声がかかる。ただし、集客のために宿泊単価を下げた施設も多く、「前年同期」と比べた宿泊単価D Iは△76.2と前回調査時の△52.4から、もう一段低下している。

今後の見通しとしては、被災地応援企画などの自粛ムード払拭を目指す取り組みや夏の花火企画、修学旅行等の代替地としての要因等から「3ヶ月後」の宿泊客数は33.3%の施設で「増加」を見込んでおり、同D Iも4.7とプラス転換が期待されている。

**建設業**の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは「横這」とする企業が87.5%、「悪化」とする企業が12.5%で同D Iは△12.5と前回調査時の△18.8から幾分改善したものの水面下での推移となっている。また、「3ヶ月後」の業況予想D Iでは50.0%の企業が「悪化」を見込むなど厳しい状況を予想している。建築工事は、諏訪地方の3月の新設住宅着工戸数は55戸で、昨年同月の64戸に比べ△9戸（△14.1%）の減少となった。また、平成22年4月～平成23年3月（平成22年度）の年間着工戸数は954戸で、前年比△165戸（△14.7%）の減少となり年間1,000戸の大台を割り込んだ。なお、諏訪地方の住宅着工戸数は「別荘」や「アパート」などの需要が旺盛であった平成3年度の3,424戸をピークに減少傾向が続いているものの、「持家」は4年ぶりに増加に転じるなど下げ止まりの傾向もみられる。

**雇用状況**は、平成23年3月の諏訪地方の有効求人倍率は前年同月を+0.17ポイント上回り0.68倍と前年同月を12ヶ月連続で上回っているが、依然として低水準で推移している。また、長野県と同倍率は0.68倍、全国の同倍率は0.63倍となっている。

なお、諏訪地域の3月の新規求人数（全数）は1,273人で前年同月比+40人（+3.2%）の増加、新規求職者数は1,333人で前年同月比+35人（+2.7%）の増加となっている。また、1件10人以上の人員整理は2件25人で、事業主都合による雇用保険資格喪失者は92人と前年同月より△2人の減少、前月より+20人の増加となった。

震災前までは雇用状況は緩やかな改善傾向が窺えたが、足元では「事業主都合による離職者」の増加や製造業でも受注が急減した企業では4勤3休の実施などの対応がみられる。

## 業況判断D Iの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社（181社）の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは「好転」企業が14.4%、「横這」企業が53.0%、「悪化」企業が32.6%で同D Iは△18.2と前回調査時の△25.2から7.0ポイント改善したものの3期連続のマイナスとなった。

製造業の業況判断D Iは「好転」企業15.0%、「横這」企業55.9%、「悪化」企業29.1%で同D Iは△14.1と前回調査時の△21.8から7.7ポイント改善した。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断D Iも△27.7と前回調査時の△33.9から6.2ポイントの改善となった。

産業別業況表

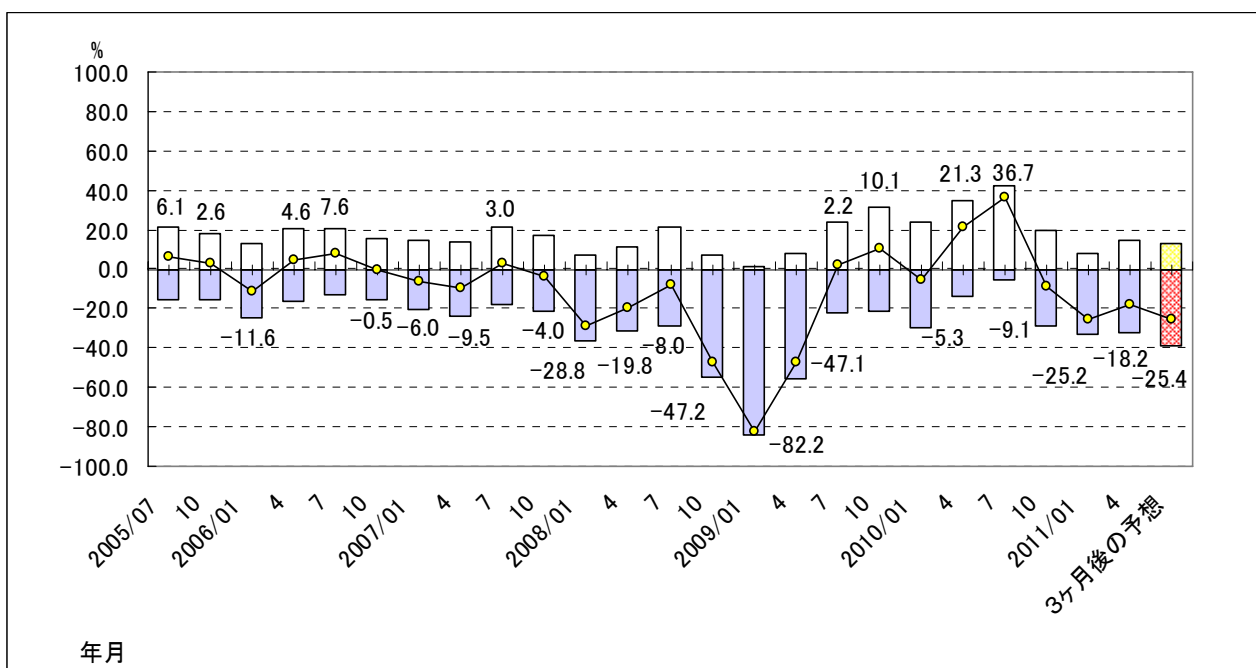
（企業数・%） 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	181	14.4	53.0	32.6	-18.2	181	25.4	34.3	40.3	-14.9	181	13.3	48.1	38.7	-25.4
製造業	127	15.0	55.9	29.1	-14.1	127	31.5	34.6	33.9	-2.4	127	14.2	47.2	38.6	-24.4
非製造業	54	13.0	46.3	40.7	-27.7	54	11.1	33.3	55.6	-44.5	54	11.1	50.0	38.9	-27.8
商業(大型店)	17	17.6	47.1	35.3	-17.7	17	23.5	41.2	35.3	-11.8	17	0.0	70.6	29.4	-29.4
建設業	16	0.0	87.5	12.5	-12.5	16	12.5	56.3	31.3	-18.8	16	6.3	43.8	50.0	-43.7
観光・サービス	21	19.0	14.3	66.7	-47.7	21	0.0	9.5	90.5	-90.5	21	23.8	38.1	38.1	-14.3

## 自社業況判断D Iの推移

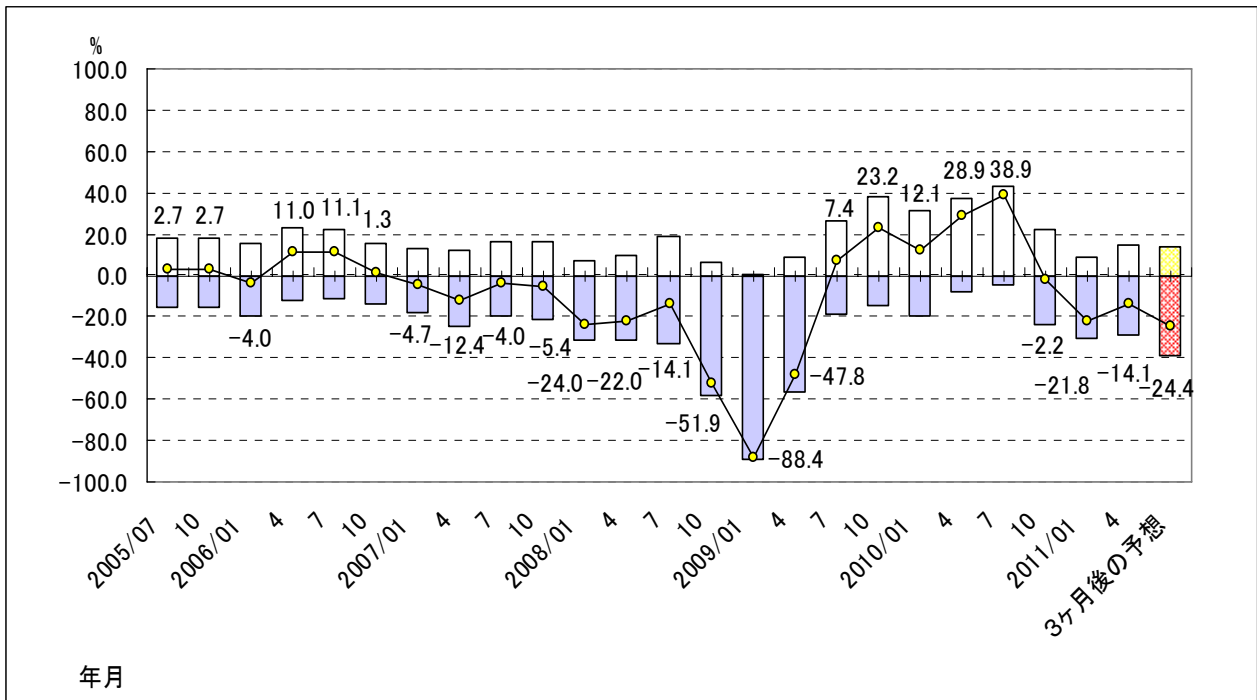
●回答全社：「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iの推移

グラフ-1



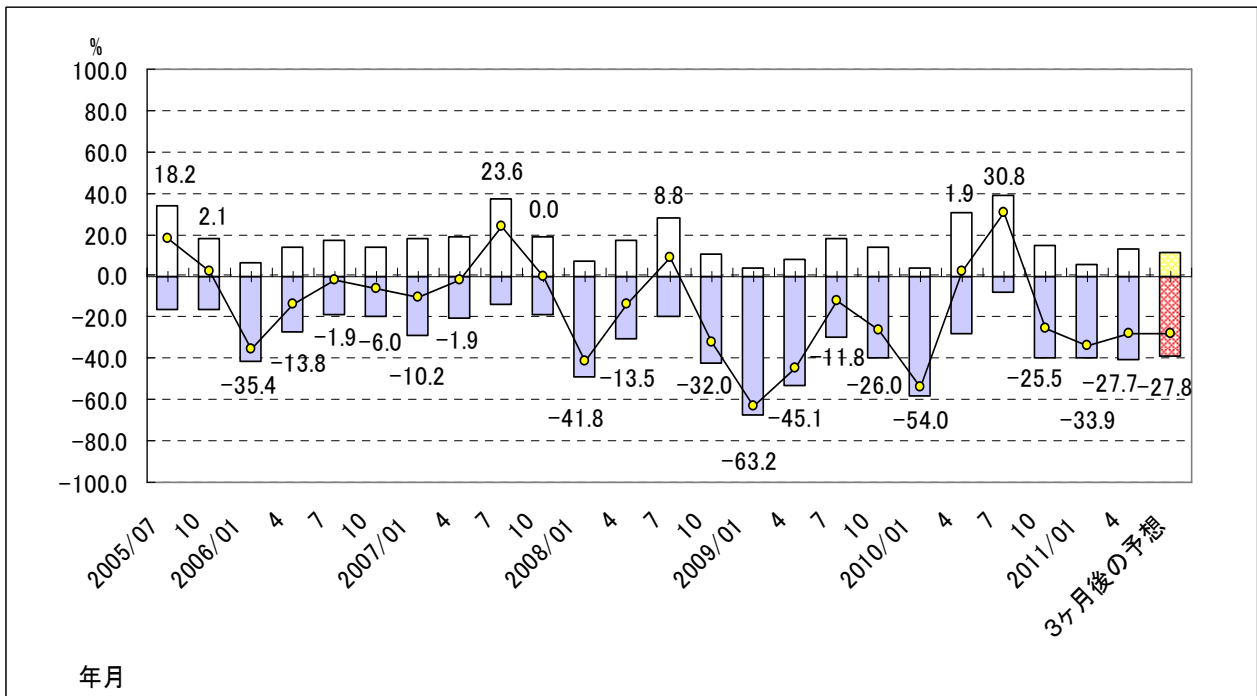
●製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iの推移

グラフ-2



●非製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iの推移

グラフ-3



## 産業別景気動向

### 1. 製造業

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは「好転」企業 15.0%、「横這」企業 55.9%、「悪化」企業 29.1%で同DIは△14.1と前回調査時の△21.8から7.7ポイント改善したものの3期連続のマイナス推移となった。一方、先行きに関して「3ヶ月後」の業況予想DIでは「横這」企業の割合が47.2%と最も多いものの、「悪化」企業の割合が38.6%あり同DIは△24.4と前回調査時の△1.5から22.9ポイント悪化した。

「3ヶ月前」と比べた収益性DIは△26.8と前回調査時の△30.8から改善しているものの、「前年同期比」では40.2%の企業で「悪化」しており同DIは△23.7、「3ヶ月後」の収益性予想でも41.3%の企業で「悪化」を見込んでおり、同DIは△32.2と前回調査時からそれぞれ20ポイント近くマイナス幅が拡大している。

「3ヶ月前」と比べた受注状況は、「増加」企業 21.6%、「減少」企業 35.2%で同DIは△13.6と前回調査時の△26.3から12.7ポイント改善した。ただし、「前年同期比」の受注状況DIは△5.6と前回調査時の10.5から16.1ポイント悪化しマイナスに転じた。また、「3ヶ月後」の受注予想DIでは36.8%の企業が「減少」を予想しており同DIは△21.6と前回調査時の△3.1から18.5ポイント悪化した。

業種別の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは、金属製品・一般機械・電気機械で改善しており、輸送用機械・精密機械で悪化した。特に、輸送用機械では70.6%の企業で「減少」したとして同DIは△53.0となっている。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
<b>製造業</b>	127	15.0	55.9	29.1	-14.1	127	31.5	34.6	33.9	-2.4	127	14.2	47.2	38.6	-24.4	
規模	1～29人	63	14.3	58.7	27.0	-12.7	63	38.1	34.9	27.0	11.1	63	12.7	39.7	47.6	-34.9
	30～99人	40	17.5	52.5	30.0	-12.5	40	22.5	32.5	45.0	-22.5	40	20.0	47.5	32.5	-12.5
	100人～	24	12.5	54.2	33.3	-20.8	24	29.2	37.5	33.3	-4.1	24	8.3	66.7	25.0	-16.7
中分類	金属製品製造業	15	20.0	60.0	20.0	0.0	15	20.0	40.0	40.0	-20.0	15	0.0	53.3	46.7	-46.7
	一般機械器具製造業	33	18.2	57.6	24.2	-6.0	33	39.4	36.4	24.2	15.2	33	15.2	39.4	45.5	-30.3
	電気機械器具製造業	26	7.7	65.4	26.9	-19.2	26	42.3	34.6	23.1	19.2	26	26.9	53.8	19.2	7.7
	輸送用機械器具製造業	17	17.6	29.4	52.9	-35.3	17	23.5	29.4	47.1	-23.6	17	5.9	29.4	64.7	-58.8
	精密機械器具製造業	12	0.0	66.7	33.3	-33.3	12	41.7	16.7	41.7	0.0	12	8.3	66.7	25.0	-16.7

## ①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

### ●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは「好転」企業20.0%、「悪化」企業20.0%の同D I 0.0で前回調査時の△28.6から5業種の中で最も大きな改善となっている。一方、「3ヶ月後」の業況予想D Iでは「好転」を見込む企業はなく、同D Iは△46.7と前回調査時の△7.2から39.5ポイント更に悪化している。

### ●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは△6.0と水面下ではあるが、前回調査時の△9.1からは幾分改善した。また、「前年同期比」では「好転」とする企業割合が39.4%と最も多く同D Iは15.2とプラスを維持するも、「3ヶ月後」の業況予想D Iでは「悪化」を見込む企業が45.5%あり同D Iは△30.3と前回調査時の6.0からマイナスに転じた。

### ●電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

「前年同期」と比べた業況判断では42.3%の企業で「好転」として、同D Iは19.2と前回調査時の6.7から12.5ポイント改善した。また、「3ヶ月後」の業況予想D Iでも26.9%の企業が「好転」を見込み同D Iは7.7と前回調査時の△6.7から14.4ポイント好転し、5業種のなかで唯一プラスに転換している。

### ●輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

自動車関連は東日本大震災によるサプライチェーン寸断の影響を大きく受けており、業況判断D Iでは「3ヶ月前比」、「前年同期比」、「3ヶ月後の予想」の全てで「悪化」企業の割合が最も高くなっている。なかでも、「3ヶ月後」の業況予想D Iでは64.7%の企業が「悪化」を見込んでおり、同D Iは△58.8と前回調査時の△6.2から52.6ポイントの大幅な悪化となっている。

### ●精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断では「好転」とする企業はなく、同D Iは△33.3となっている。また、「前年同期比」では「好転」企業が41.7%、「悪化」企業が41.7%で同D Iは0.0と企業により景況感が区々となっている。

## ②規模別業況

「3ヶ月前」と比べた業況判断での「悪化」企業の割合は、企業規模が大きくなるほど増加している。また、「前年同期比」の業況判断D Iでは、「30~99人企業」は前回調査時の16.7から39.2ポイント悪化の△22.5、「100人以上企業」は前回調査時の34.6から38.7ポイント悪化の△4.1へとマイナス転換しているものの、「1~29人企業」は11.1と前回調査時の10.7から0.4ポイント改善している。ただし、「3ヶ月後」の業況予想では「1~29人企業」の47.6%が「悪化」を予想している。

### ③受注状況D I（規模別、業種別）

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた受注状況は「増加」企業 21.6%、「減少」企業 35.2%で同D Iは△13.6と前回調査時の△26.3から 12.7ポイント改善した。ただし、「前年同期比」の受注状況D Iは△5.6と前回調査時の 10.5から 16.1ポイント悪化しマイナスに転じた。また、「3ヶ月後」の受注予想D Iでは 36.8%の企業が「減少」を予想しており同D Iは△21.6と前回調査時の△3.1から 18.5ポイント悪化した。

規模別の「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iでは各規模ともマイナス幅が縮小しており、なかでも「1～29人企業」の同D Iは△6.4と前回調査時の△27.7から 21.3ポイント改善した。一方、「前年同期比」の受注状況D Iでは「30～99人企業」の 45.0%の企業で「減少」として同D Iは△20.0と前回調査時から 29.5ポイントの悪化、「100人以上企業」では 39.1%の企業で「減少」として同D Iは△8.7と前回調査時から 43.3ポイントの大幅な悪化となった。ただし、「1～29人企業」では 37.1%の企業が「増加」として同D Iは 4.8と前回調査時の 1.6から 3.2ポイント改善している。また、「3ヶ月後」の受注予想D Iでは「減少」を見込む企業が「1～29人企業」で 37.1%、「30～99人企業」で 38.5%、「100人以上企業」で 33.3%あり、いずれの規模でもマイナス幅が拡大している。

業種別の「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iは、金属製品・一般機械・電気機械で改善しており、輸送用機械・精密機械で悪化した。特に、輸送用機械では 70.6%の企業で「減少」したとして同D Iは△53.0となっている。また、「前年同期」と比べた受注状況D Iでは金属製品の 46.7%の企業が「減少」として前回調査時の 42.8から 56.2ポイント悪化の△13.4、輸送用機械でも 64.7%の企業で「減少」として前回調査時の 6.3から 59.2ポイント悪化の△52.9と大幅に悪化している一方、電気機械では 48.0%の企業で「増加」として同D Iは 28.0と前回調査時の 0.0から改善している。

また、「3ヶ月後」の受注予想D Iでは、輸送用機械の 58.8%の企業で「減少」を見込み同D Iは△52.9と引き続き厳しい受注環境が見込まれている。

業種別・規模別受注状況表

表-3

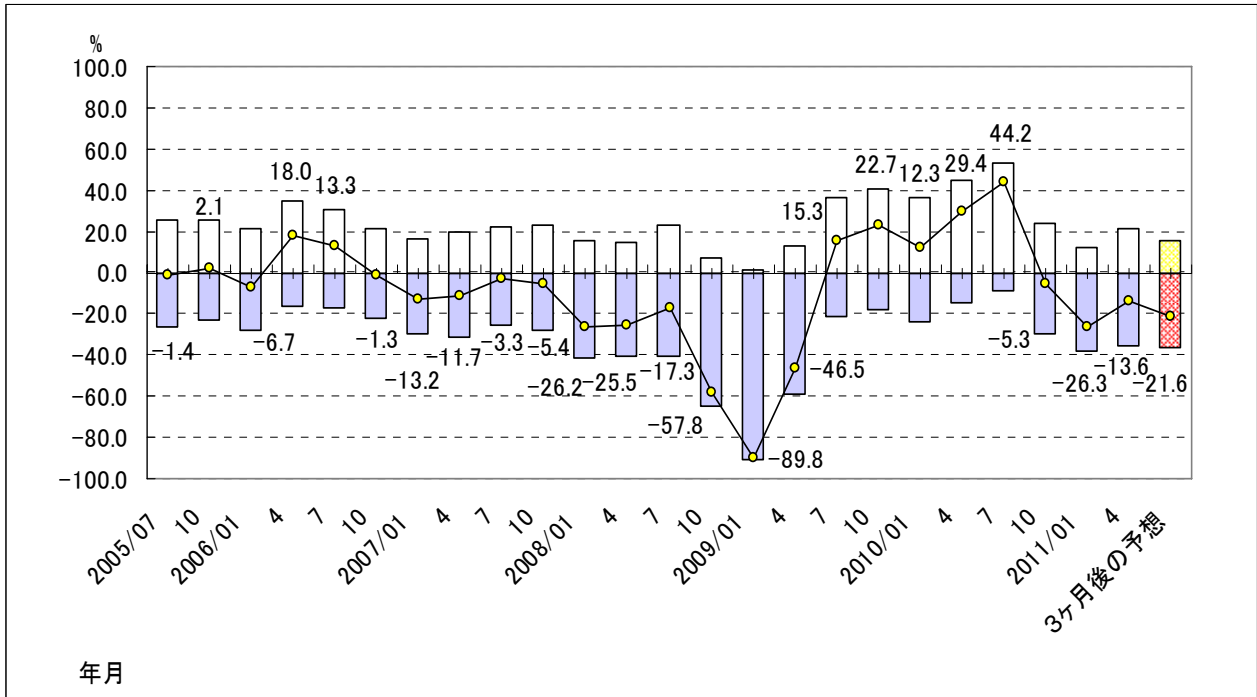
	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	125	21.6	43.2	35.2	-13.6	125	32.0	30.4	37.6	-5.6	125	15.2	48.0	36.8	-21.6	
規模	1～29人	62	24.2	45.2	30.6	-6.4	62	37.1	30.6	32.3	4.8	62	14.5	48.4	37.1	-22.6
	30～99人	40	17.5	45.0	37.5	-20.0	40	25.0	30.0	45.0	-20.0	39	20.5	41.0	38.5	-18.0
	100人～	23	21.7	34.8	43.5	-21.8	23	30.4	30.4	39.1	-8.7	24	8.3	58.3	33.3	-25.0
分類	金属製品製造業	15	20.0	53.3	26.7	-6.7	15	33.3	20.0	46.7	-13.4	15	0.0	60.0	40.0	-40.0
	一般機械器具製造業	32	25.0	43.8	31.3	-6.3	32	40.6	31.3	28.1	12.5	32	15.6	46.9	37.5	-21.9
	電気機械器具製造業	25	24.0	48.0	28.0	-4.0	25	48.0	32.0	20.0	28.0	26	30.8	42.3	26.9	3.9
	輸送用機械器具製造業	17	17.6	11.8	70.6	-53.0	17	11.8	23.5	64.7	-52.9	17	5.9	35.3	58.8	-52.9
	精密機械器具製造業	12	0.0	66.7	33.3	-33.3	12	41.7	25.0	33.3	8.4	12	8.3	58.3	33.3	-25.0



製造業の受注状況D Iの推移

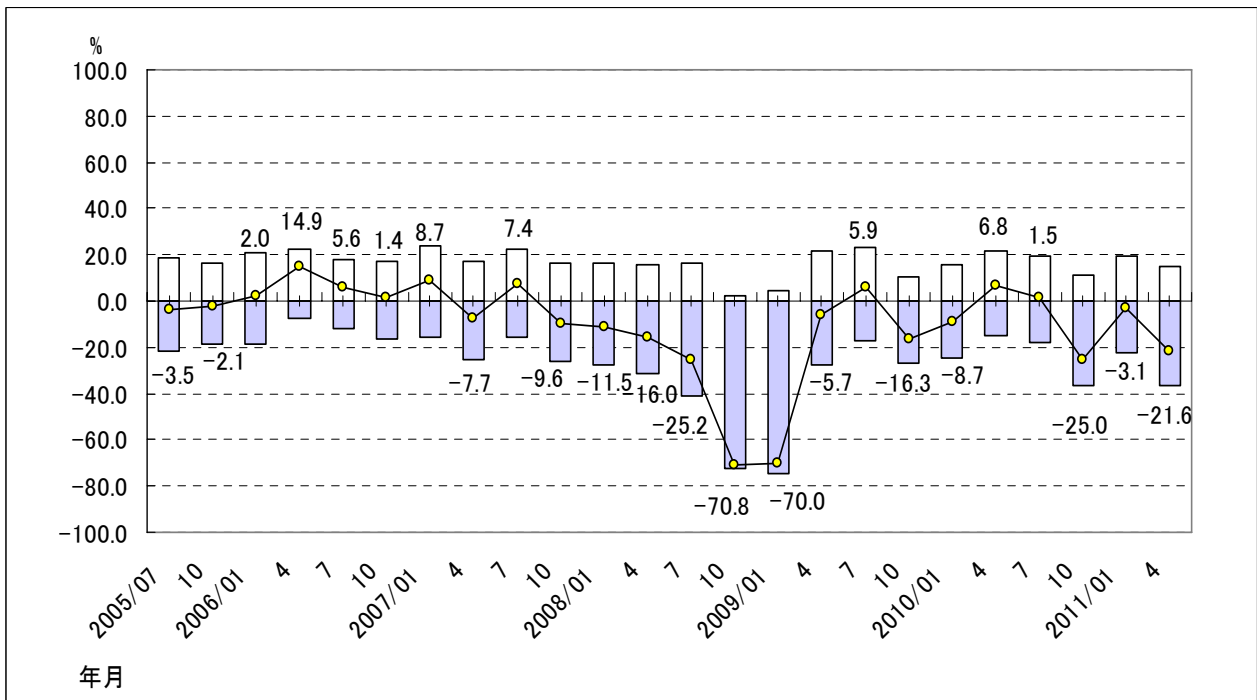
●製造業全社：「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iの推移

グラフー4



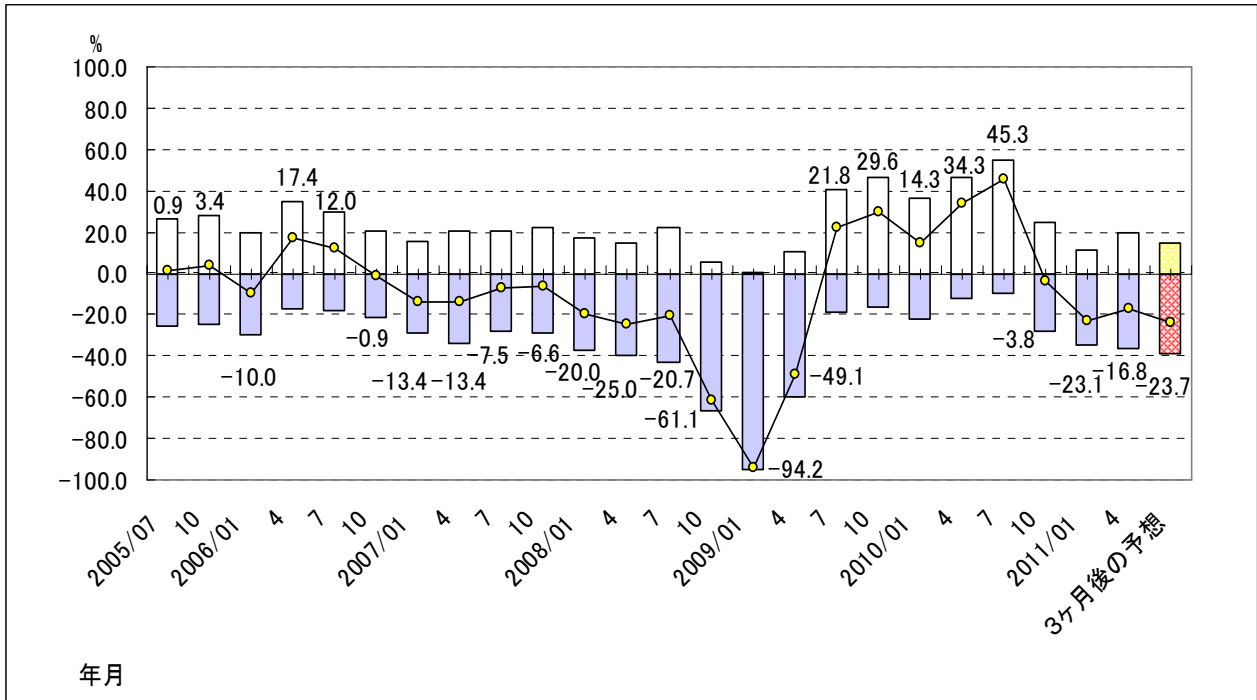
●製造業全社：「3ヶ月後」の受注予想D Iの推移

グラフー5



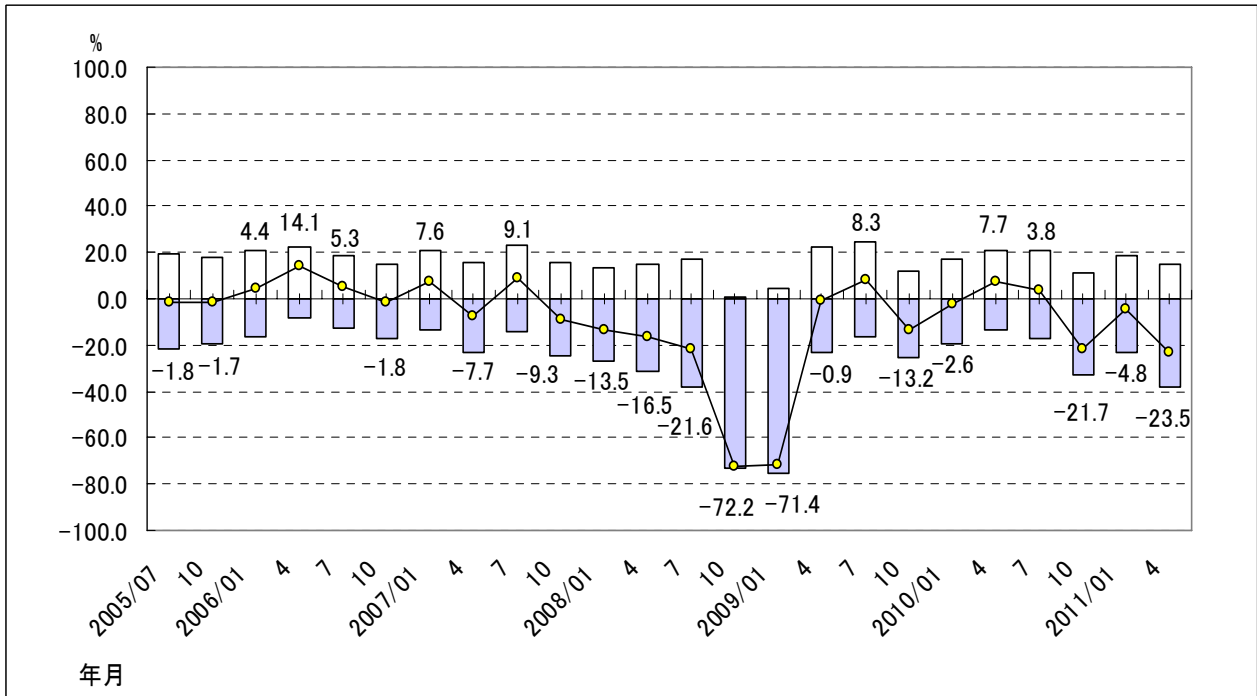
●製造業 主要5業種：「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iの推移

グラフー6



●製造業 主要5業種：「3ヶ月後」の受注予想D Iの推移

グラフー7



## 2. 商業・観光サービス業

### ①商業

震災直後は各種の品物で「買いだめ」の動きがあり、飲料水やカップ麺、また乾電池やトイレットペーパーなどが欠品したが、4月に入り「買いだめ」も静まり各商品も安定供給されはじめ落ち着きを取り戻した。御柱祭のあった昨年と比べ食料品や酒などの動きは弱いものの、震災の影響により「内食」や「中食」とよばれる自宅で飲食をする傾向が再び強まり、「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは△17.7、来店客数DIは△23.6とマイナスではあるが、前回調査時から両指標とも20ポイント近く改善している。

- 食料品 御柱祭の特需の反動から前年比の売上高は減少した。諏訪市内での新店舗オープンや茅野市内での店舗リニューアル予定など競争環境は激化している。
- 衣料品 夏の節電対策に向けステテコなどの品揃えを充実させている店舗がみられる。
- 自動車 諏訪地方の4月の車庫証明件数（軽除く）は619台と新車の供給が停滞していることから前年同月比△192台（△23.7%）の大幅な減少となった。
- 家電店 エコポイント制度の終了により薄型テレビの動きは弱含んでいる。
- ホームセンター 防災用品の動きは落ち着き、代わりに節電グッズの売り上げが伸びている。

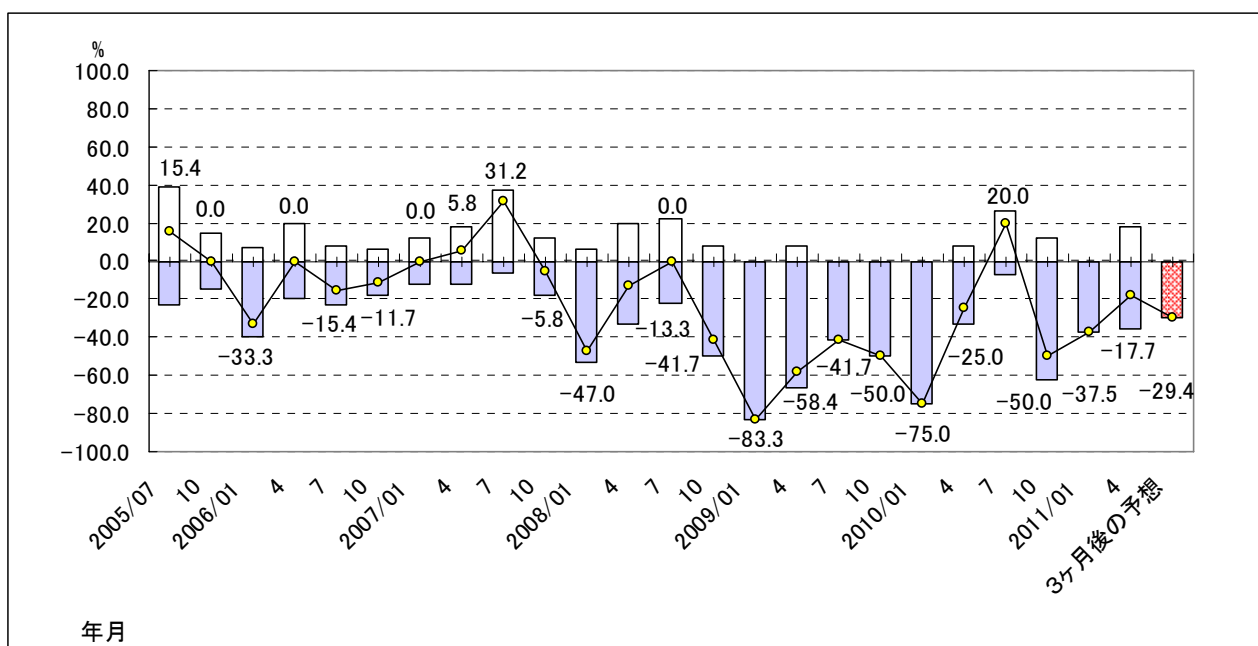
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	17	17.6	47.1	35.3	-17.7	17	23.5	41.2	35.3	-11.8	17	0.0	70.6	29.4	-29.4
客単価	17	17.6	58.8	23.5	-5.9	17	17.6	52.9	29.4	-11.8	17	5.9	82.4	11.8	-5.9
来店客数	17	17.6	41.2	41.2	-23.6	17	11.8	41.2	47.1	-35.3	17	0.0	64.7	35.3	-35.3

●商業全社：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-8



②観光・サービス業

震災の影響による団体客を中心とした宿泊のキャンセルに加え、前年が御柱祭 期間中であったことから、「前年同期」と比べた宿泊客数は81.0%の施設で「減少」しており、宿泊客数DIは△76.2と前回調査時の△14.3から大幅に悪化した。また、ゴールデンウィークの予約は4月上旬には低調だったものの、連休直前に駆け込みで増加したホテル・旅館が多く、当初 危惧していたよりは予約状況は堅調であったとする声がきかれる。ただし、集客のために宿泊単価を下げた施設も多く、「前年同期」と比べた宿泊単価DIは△76.2と前回調査時の△52.4から、もう一段低下している。

今後の見通しとしては、被災地応援企画などの自粛ムード払拭を目指す取り組みや夏の花火企画、修学旅行等の取り込み等から「3ヶ月後」の宿泊客数は33.3%の施設で「増加」を見込んでおり、同DIも4.7とプラス転換が期待されている。

- 上諏訪温泉 WEBによる集客で個人客は幾分戻っているが、団体客は引き続き低調である。
- 蓼科・白樺湖・車山方面ほか 宿泊者数は前年に比べ10～30%程度減少したホテル旅館が多いものの、個人客をターゲットとした小規模な施設では前年並みを維持しているところもある。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた4月の参拝者数は約37千人と御柱祭のあった前年同月に比べ△56千人の大幅な減少となった。

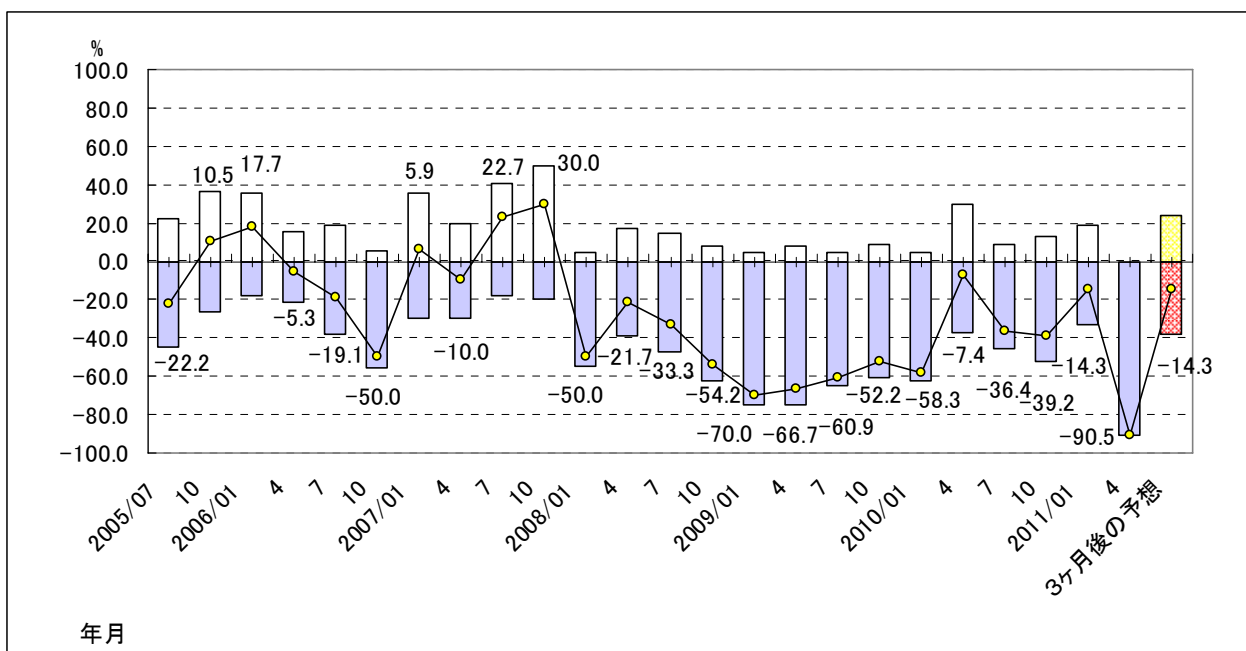
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	21	19.0	14.3	66.7	-47.7	21	0.0	9.5	90.5	-90.5	21	23.8	38.1	38.1	-14.3
客単価	21	4.8	23.8	71.4	-66.6	21	0.0	23.8	76.2	-76.2	21	14.3	42.9	42.9	-28.6
宿泊客数	21	19.0	9.5	71.4	-52.4	21	4.8	14.3	81.0	-76.2	21	33.3	38.1	28.6	4.7

●観光・サービス業全社：「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-9



### 3. 建設業

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは「横這」とする企業が87.5%、「悪化」とする企業が12.5%で同DIは△12.5と前回調査時の△18.8から幾分改善したものの水面下での推移となっている。また、「3ヶ月後」の業況予想DIは50.0%の企業が「悪化」を見込むなど厳しい状況を予想している。

諏訪地方の3月の新設住宅着工戸数は55戸で、昨年同月の64戸に比べ△9戸（△14.1%）の減少となった。また、平成22年4月～平成23年3月（平成22年度）の年間着工戸数は954戸で、前年比△165戸（△14.7%）の減少となり年間1,000戸の大台を割り込んだ。また、諏訪地方の住宅着工戸数は「別荘」や「アパート」などの需要が旺盛であった平成3年度の3,424戸をピークに減少傾向が続いているものの、「持家」は4年ぶりに増加に転じるなど下げ止まりの傾向もみられる。

なお、震災の影響による断熱材やベニヤ板などの一部の建材の品薄状態は続いている。

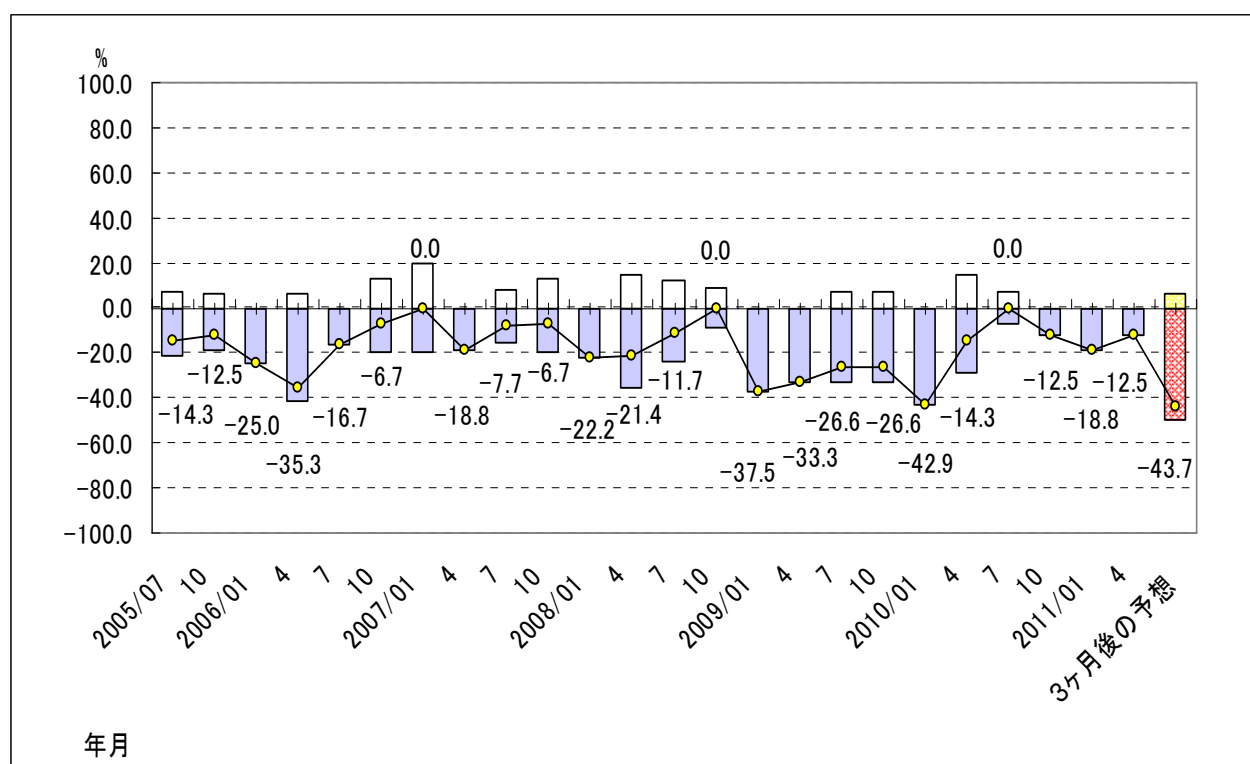
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	16	0.0	87.5	12.5	-12.5	16	12.5	56.3	31.3	-18.8	16	6.3	43.8	50.0	-43.7
受注状況	16	0.0	62.5	37.5	-37.5	16	12.5	31.3	56.3	-43.8	16	0.0	43.8	56.3	-56.3
外注発注量	16	0.0	68.8	31.3	-31.3	16	0.0	56.3	43.8	-43.8	16	6.3	50.0	43.8	-37.5

●建設業全社：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-10



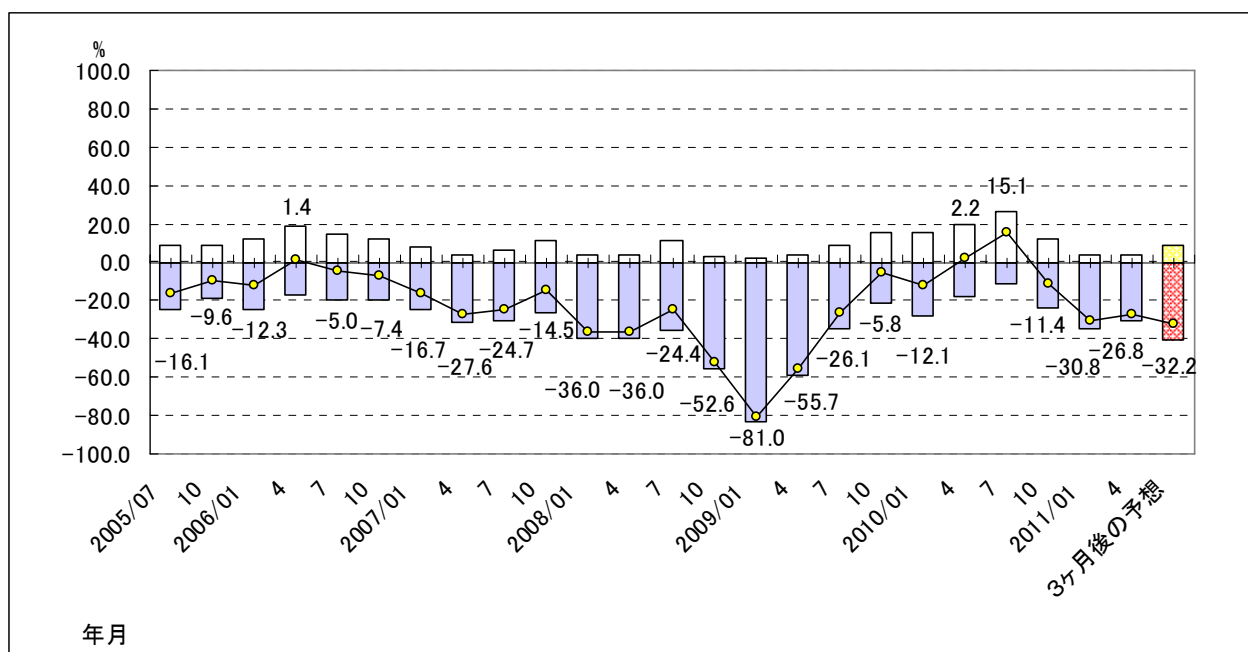
#### 4. 収益性状況

回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性D Iは、「好転」企業が5.0%、「横這」企業が61.9%、「悪化」企業が33.1%で、同D Iは $\Delta 28.1$ と前回調査時の $\Delta 32.3$ から幾分改善した。

製造業は、「3ヶ月前」と比べた収益性D Iは $\Delta 26.8$ と前回調査時の $\Delta 30.8$ から改善しているものの、「前年同期比」では40.2%の企業で「悪化」しており同D Iは $\Delta 23.7$ 、「3ヶ月前」の収益性予想でも41.3%の企業で「悪化」を見込んでおり、同D Iは $\Delta 32.2$ と前回調査時からそれぞれ20ポイント近くマイナス幅が拡大している。

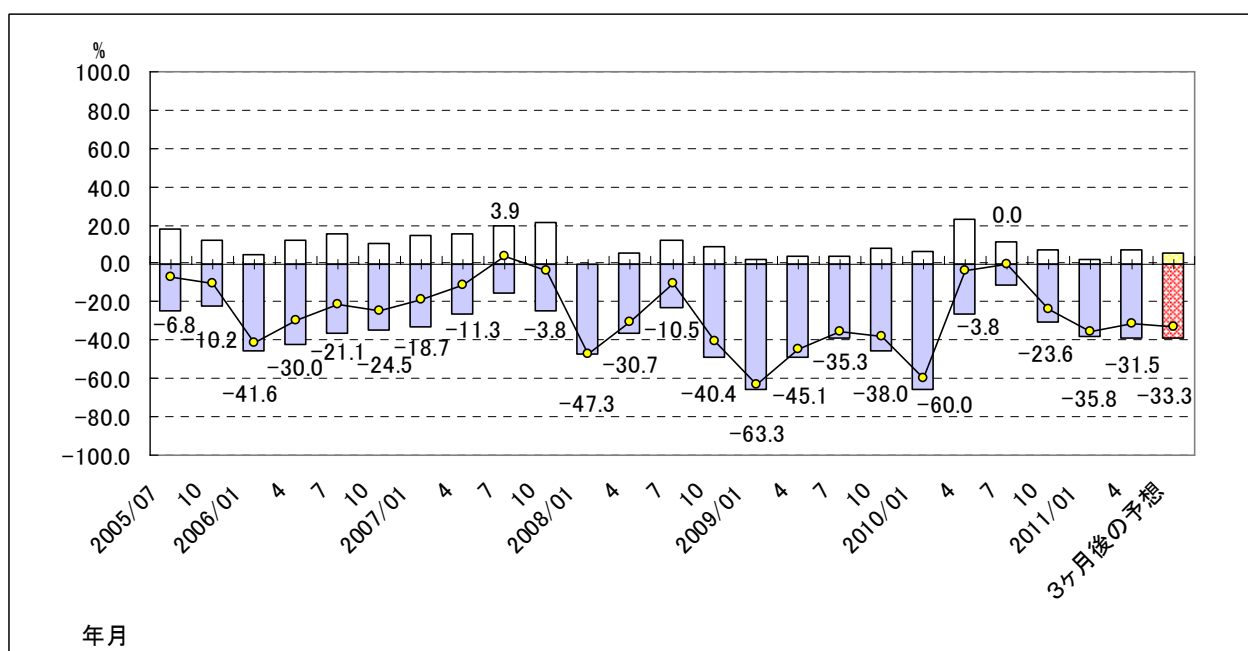
##### ●製造業：3ヶ月前と比べた収益性D I

グラフー11



##### ●非製造業：3ヶ月前と比べた収益性D I

グラフー12



## 5. 経営上の課題

経営上の課題として、①製造業は売上減少、単価引下げ、競争激化をあげる企業が多く、②商業は売上減少、人件費、③建設業は売上減少、競争激化、④観光・サービス業は売上減少、資金繰りをあげている。その他の項目では、震災の影響による部材の調達難や値上げ等が課題とする企業が多い。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	96	67	7	6	16
単価引下げ	41	31	2	1	7
競争激化	39	28	2	5	4
資金繰り	39	26	3	2	8
人件費	26	15	5	1	5
労働力確保	15	12	2	0	1

## 6. 諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比	
有効求人倍率【3月】	ハローワーク諏訪	0.68倍	+0.17ポイント	
手形交換高【4月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	5,813枚	△2,130枚	
	金額	9,952百万円	△1,312百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	1枚	△7枚
	金額	266千円	△4,867千円	
電力使用量【4月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	69,161 MWh	+2.4%	
	高压電力計	99,674 MWh	△2.9%	
	合計	168,835 MWh	△0.8%	
車庫証明取扱件数【4月】(諏訪地方合計)		619件	△23.7%	
新設住宅着工戸数【H22.4~H23.3】(諏訪管内)		954戸	△14.7%	

## 7. 調査概要

DI調査：業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値

①調査期間 平成23年4月末

②調査内容 「平成23年4月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想

③調査方法 アンケート調査(回答数 下記7)及びヒアリング調査(約130社)

④対象地域 諏訪地域全域

⑤業種 製造業、商業(大型店：売り場面積501㎡以上)、建設業、観光・サービス業

⑥回答企業数 181企業

⑦回答率 67.8%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	200	20	20	27	267
回答数	127	17	16	21	181